

建築資料研究社は 教職員の使い捨てを改め生活を保障しろ

建築資料研究社は、東京を始めとし関東近県に8校の建築の専門学校、日建工科専門学校グループを設立運営していますが、2001年度から一方的に雇用形態を、一年更新の有期雇用へ切替、翌年の2002年度から年俸制、評価制度を導入しました。

評価制度とは名ばかりで実際は教職員の賃金を大幅にカットする目的で導入したものでした。

その結果、大幅な賃金の減額を突き付け「嫌なら辞める」という一方的な雇用契約により職場を去って行った教職員や、来年度の給与に何の保証も無い雇用形態に将来の希望が見出せず辞めていった若い教員などが後を絶ちません。

評価制度の内容も教職員の教育に対する意欲を削ぐものです。日建工科専門学校は認可を受けた学校であり、将来を担う学生の教育の場です。近年の耐震偽装疑惑で問題になった建築士は無能だったではありません、建築とは人々の生活と安全と財産を守る重要な仕事なんだと言っ建築に携わる人間の最も重要な部分を無視し営利に走ったために起こった問題です。こう言った重要な部分を教え社会に送り出すことも我々教職員の重要な教育の一つなのです。

しかし、我が校の経営陣は、教育内容は教職員に任せ何の評価もせず、次年度入学予定者を募集することを教職員にノルマ化し、募集活動のみを成績として査定するといった正に営利追及に突き進んでいます。

この間違った評価制度を改めさせなければ、今現場で教育に力を注いでいる教職員は大切な生徒を育てるために働き続けることが出来なくなります。

我々日建工科グループ（NK）ユニオンは、教職員が働き続けられる職場を願って一昨年結成し、改善を訴え続けています。多くの方々の賛同とご支援をお願いいたします



NKユニオン

執行委員長 小池 利幸

（東京日建工科専門学校教員）